Cisco Jabber アプリケーションの展開

- Cisco Jabber クライアントのダウンロード，1 ページ
- Cisco Jabber for Windows のインストール，2 ページ
- Cisco Jabber for Mac のインストール，35 ページ
- Cisco Jabber モバイル クライアントのインストール，41 ページ

Cisco Jabber クライアントのダウンロード

必要に応じて、そのクライアントに対応したオペレーティング システムから署名ツールを使用して、Jabber インストーラまたは Cisco Dynamic Libraries にユーザ独自のカスタマー署名を追加することができます。

（注） Cisco Jabber for Mac の場合、インストーラには製品のインストーラ ファイルが含まれています。端末ツールを使用してインストーラから pkg ファイルを解凍し、インストーラに追加する前に pkg ファイルに署名します。

手順

- Cisco Software Center にアクセスして Cisco Jabber for Mac または Cisco Jabber for Windows クライアントをダウンロードします。
- Cisco Jabber for Android の場合は、Google Play からアプリケーションをダウンロードします。
- Cisco Jabber for iPhone and iPad の場合は、App Store からアプリケーションをダウンロードします。

Cisco Jabber for Windows のインストール

Cisco Jabber for Windows は、次のように使用可能な MSI インストール パッケージを提供します。

インストール オプション	説明
コマンドラインの使用, （2 ページ）	コマンドライン ウィンドウで引数を指定して、インストール プロパティを設定できます。 複数のインスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。
MSI の手動による実行, （24 ページ）	クライアントの起動時に、MSI をクライアント ワーク ステーションのファイル システムで手動で実行し、接続プロパティを指定します。 テストまたは評価用に単一インスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。
カスタム インストーラの作成, （25 ページ）	デフォルトのインストール パッケージを開き、必要なインストール プロパティを指定し、カスタム インストール パッケージを保存します。 同じインストール プロパティを持つインストール パッケージを配布する場合は、このオプションを選択します。
グループ ポリシーを使用した導入, （29 ページ）	同じドメインの複数のコンピュータにクライアントをインストールします。

はじめる前に

ローカル管理者権限でログインする必要があります。

コマンドラインの使用

コマンドライン ウィンドウにインストール引数を指定します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi
```

ステップ 3 パラメータ = 値のペアとしてコマンドライン引数を指定します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi argument=value
```

ステップ 4 Cisco Jabber for Windows をインストールするコマンドを実行します。

インストール コマンドの例

Cisco Jabber for Windows をインストールするためのコマンド例を確認してください。

Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi /quiet CLEAR=1
```

ここで、

CLEAR=1：既存のブートストラップ ファイルを削除します。
`/quiet`：サイレント インストールを指定します。

コマンドライン引数

Cisco Jabber for Windows をインストールする際に指定可能なコマンド ライン引数を確認してください。

オーバーライドの引数

次の表では、過去のインストールで得た既存のブートストラップ ファイルを上書きするため、ユーザが指定する必要があるパラメータについて説明します。

引数	値	説明
CLEAR	1	クライアントが以前のインストールからの既存のブートストラップ ファイルを上書きするかどうかを指定します。 クライアントは、インストール中に引数と設定された値をブートストラップ ファイルに保存します。クライアントは起動時に、ブートストラップ ファイルから設定をローディングします。

CLEAR を指定した場合、インストール中に次が実行されます。

1. クライアントが既存のブートストラップ ファイルを削除する。
2. クライアントが新しいブートストラップ ファイルを作成する。

CLEAR を指定しない場合、クライアントはインストール中に既存のブートストラップ ファイルがあるかどうかをチェックします。

- ブートストラップ ファイルがない場合、インストール時に、クライアントはブートストラップ ファイルを作成します。
- ブートストラップ ファイルが見つかる場合、クライアントは、ブートストラップ ファイルを上書きせず、既存の設定を保存します。

（注） Cisco Jabber for Windows を再インストールする場合は、次の点に留意する必要があります。

- クライアントは、既存のブートストラップ ファイルからの設定を保存しません。CLEAR を指定した場合は、他のすべてのインストール引数も適切に指定する必要があります。
- クライアントは、既存のブートストラップファイルにインストール引数を保存しません。インストール引数の値を変更する場合、または追加のインストール引数を指定する場合は、既存の設定を上書きするために CLEAR を指定する必要があります。

既存のブートストラップ ファイルを上書きするには、コマンドラインに CLEAR を次のように指定します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi CLEAR=1
```

モード タイプの引数

次の表は、製品モードを指定するコマンドラインの引数について説明します。

引数	値	説明
PRODUCT_MODE	Phone_Mode	クライアントの製品モードを指定します。次の値を設定できます。 • Phone_Mode：Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。 基本機能としてオーディオ デバイスを持つユーザをプロビジョニングする場合は、この値を選択します。

製品モードを設定する場合

電話モード展開では、Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。クライアントがオーセンティケータを取得すると、製品モードが電話機モードであることが決定されます。ただし、クライアントは最初の起動時にデフォルトの製品モードで常に開始するため、ユーザはログイン後に電話モードにして、クライアントを再起動する必要があります。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降：インストール中に PRODUCT_MODE を設定しないでください。クライアントはサービスプロファイルからオーセンティケータを

取得します。ユーザがログインすると、クライアントは、電話モードにして再起動するよう要請します。

製品モードの変更

製品モードを変更するには、クライアントのオーセンティケータを変更する必要があります。クライアントは、オーセンティケータからの製品モードを決定します。

インストール後の製品モードの変更方法は、ご使用の展開により異なります。

（注） すべての展開において、ユーザは [詳細設定（Advanced settings）] ウィンドウで手動でオーセンティケータを設定できます。

この場合、ユーザには、[詳細設定（Advanced settings）] ウィンドウでオーセンティケータを変更することによって、製品モードを変更するように指示します。クライアントをアンインストールし、その後に再インストールしても、手動設定を上書きすることはできません。

Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用した製品モードの変更

Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用して製品モードを変更するには、サービス プロファイルのオーセンティケータを変更します。

手順

ステップ 1 適切なユーザのサービス プロファイルでオーセンティケータを変更します。

[デフォルト モード（Default Mode）] > [電話モード（Phone Mode）] を変更します。

IM and Presence を持つユーザのプロビジョニングを行わないでください。

サービス プロファイルに IM and Presence サービスの設定が含まれていない場合は、Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータです。

[電話モード（Phone Mode）] > [デフォルト モード（Default Mode）] を変更します。

IM and Presence を持つユーザのプロビジョニングを行います。

IM and Presence プロファイルの [製品タイプ（Product Type）] フィールドの値を次に対して設定した場合、

- [Unified CM（IM and Presence）]：オーセンティケータは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービスです。
- [WebEx (IM and Presence)]：オーセンティケータは Cisco WebEx Messenger サービスです。

ステップ 2 ユーザにログアウトをしてから再度ログインするように指示します。

ユーザがクライアントにログインすると、サービス プロファイルの変更を取得し、オーセンティケータにユーザをログインさせます。クライアントは製品モードを決定すると、クライアントを再起動するようユーザに指示します。

ユーザがクライアントを再起動した後、製品モードの変更が完了します。

認証引数

次の表は、認証ソースの指定をユーザが設定できるコマンドライン引数を説明しています。

引数	値	説明
AUTHENTICATOR	CUP CUCM WebEx	クライアントに認証ソースを指定します。この値は、サービス ディスカバリに失敗した場合に使用されます。値として次のいずれかを設定します。 • CUP：Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス。デフォルトの製品モードでのオンプレミスの展開。デフォルト製品モードはフル UC または IM のみのいずれかです。 • CUCM：Cisco Unified Communications Manager。電話モードでのオンプレミスの展開。 • WEBEX：Cisco WebEx Messenger サービス。クラウドベースまたはハイブリッド クラウド ベースでの展開。 Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.x 以降を使用したオンプレミス展開では、`_cisco-uds` SRV レコードを展開する必要があります。クライアントは、自動的にオーセンティケータを決定することができます。
CUP_ADDRESS	IP アドレス ホストネーム FQDN	Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービスのアドレスを指定します。値として次のいずれかを設定します。 • ホスト名（*hostname*） • IP アドレス（*123.45.254.1*） • FQDN（*hostname.domain.com*）

引数	値	説明
TFTP	IP アドレス ホストネーム FQDN	TFTP サーバのアドレスを指定します。値として次のいずれかを設定します。 • ホスト名（*hostname*） • IP アドレス（*123.45.254.1*） • FQDN（*hostname.domain.com*） Cisco Unified Communications Manager がオーセンティケータとして設定されている場合に、この引数を指定する必要があります。 展開する場合： • 電話モード：クライアントコンフィギュレーションをホスティングする TFTP サーバのアドレスを指定する必要があります。 • デフォルト モード：デバイス設定をホストする Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定できます。
[CTI]	IP アドレス ホストネーム FQDN	CTI サーバのアドレスを設定します。 この引数を指定します。 • Cisco Unified Communications Manager をオーセンティケータとして設定する。 • ユーザは、デスク フォン デバイスを持ち、CTI サーバを必要とします。

引数	値	説明
CCMCIP	IP アドレス ホストネーム FQDN	CCMCIP サーバのアドレスを設定します。 この引数を指定します。 • Cisco Unified Communications Manager をオーセンティケータとして設定する。 • CCMCIP サーバのアドレスが TFTP サーバアドレスと同じではありません。 クライアントは両方のアドレスが同じであれば、TFTP サーバアドレスで CCMCIP サーバを検索できます。 Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以前：Cisco Extension Mobility を有効にする場合は、CCMCIP に使用される Cisco Unified Communications Manager ノードで `Cisco Extension Mobility` サービスをアクティブにする必要があります。Cisco Extension Mobility の詳細については、使用している Cisco Unified Communications Manager のリリースに応じた『*Feature and Services*』ガイドを参照してください。
SERVICES_DOMAIN	ドメイン	サービスディスカバリの DNS SRV レコードが存在するドメインの値を設定します。 この情報のインストーラ設定または手動設定をクライアントで使用する場合、この引数は DNS SRV レコードが存在しないドメインに設定します。この引数が指定されない場合、ユーザはサービスドメイン情報を指示されます。

引数	値	説明
VOICE_SERVICES_DOMAIN	Domain	ハイブリッド展開では、CAS 検索を介して Webex を検出することが必要なドメインが、DNS レコードが展開されたドメインと異なる場合があります。この場合、SERVICES_DOMAIN を WebEx の検出に使用されたドメインに設定し（またはユーザにメール アドレスを入力させる）、VOICE_SERVICES_DOMAIN を DNS レコードが展開されたドメインに設定します。この設定が指定された場合、クライアントはサービス ディスカバリとエッジ検出の目的で、VOICE_SERVICES_DOMAIN の値を使用して次の DNS レコードを検索します。 • `_cisco-uds` • `_cuplogin` • `_collab-edge` この設定は任意です。指定しない場合、DNS は SERVICES_DOMAIN、ユーザによるメール アドレス入力、またはキャッシュされたユーザ設定から取得したサービス ドメインで照会されます。
EXCLUDED_SERVICES	次のうち 1 つ以上： • WEBEX • CUCM	Jabber がサービスディスカバリから除外するサービスを示します。たとえば、WebEx の試験導入を実施し、会社のドメインが WebEx に登録されているが、Jabber ユーザが WebEx を使用して認証することは避けたい場合があります。Jabber は CUCM サーバで認証させることにします。この場合、次のように設定します。 • EXCLUDED_SERVICES=WEBEX 使用できる値は、CUCM、WEBEX です。 すべてのサービスを除外した場合、Jabber クライアントの設定に手動設定またはブートストラップ設定を使用する必要があります。

引数	値	説明
UPN_DISCOVERY_ENABLED	true false	クライアントがサービスを検出したときに Windows セッションのユーザ プリンシパル名（UPN）を使用してユーザのユーザ ID とドメインを取得するかどうかを定義できるようにします。 • true（デフォルト）：UPN が、サービス検出で使用されるユーザのユーザ ID とドメインの検索に使用されます。UPN から検出されたユーザだけが、クライアントにログインできます。 • false：UPN はユーザのユーザ ID とドメインの検索に使用されません。ユーザは、サービス ディスカバリ用のドメインを検索するためのクレデンシャルの入力を要求されます。 インストール コマンドの例：`msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi /quiet UPN_DISCOVERY_ENABLED=false`

TFTP サーバ アドレス

Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバから 2 つの異なるコンフィギュレーション ファイルを取得します。

- 作成したクライアント設定ファイル。
- デバイスを使用してユーザをプロビジョニングしたときに Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスに配置されるデバイス コンフィギュレーション ファイル。

労力を最小限に抑えるには、Cisco Unified Communications Manager TFTP サービス上でクライアントコンフィギュレーションファイルをホストする必要があります。すべての設定ファイルに対し TFTP サーバ アドレスを 1 つのみ使用します。必要な場合にそのアドレスを指定できます。

ただし、デバイス設定を含む TFTP サーバとは異なる TFTP サーバでクライアント設定をホストできます。この場合、2 つの異なる TFTP サーバ アドレスを使用します。一方のアドレスは、デバイス設定をホストする TFTP サーバのアドレスで、もう一方のアドレスは、クライアント設定ファイルをホストする TFTP サーバのアドレスです。

デフォルトの展開

このセクションでは、プレゼンス サーバがある展開で、2 つの異なる TFTP サーバ アドレスを処理する方法について説明します。

以下を実行する必要があります。

1. プレゼンス サーバにあるクライアント設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
2. インストール中に、TFTP 引数を使用して Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを指定します。

クライアントは、初回起動時に以下を実行します。

1. ブートストラップ ファイルから Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを取得します。
2. Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスからデバイス設定を取得します。
3. プレゼンス サーバに接続します。
4. プレゼンス サーバのクライアント設定をホストする TFTP サービスのアドレスを取得します。
5. TFTP サーバからクライアント設定を取得します。

電話モード展開

このセクションでは、電話モード展開で 2 つの異なる TFTP サーバ アドレスを処理する方法について説明します。

以下を実行する必要があります。

1. インストール中に、TFTP 引数を使用して、クライアント設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
2. クライアント コンフィギュレーション ファイルで TftpServer1 パラメータを使用して、デバイス設定をホストする TFTP サーバのアドレスを指定します。
3. TFTP サーバにあるクライアント設定ファイルをホストします。

クライアントは、初回起動時に以下を実行します。

1. ブートストラップ ファイルから TFTP サーバのアドレスを取得します。
2. TFTP サーバからクライアント設定を取得します。
3. クライアント設定から Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスのアドレスを取得します。
4. Cisco Unified Communications Manager TFTP サービスからデバイス設定を取得します。

共通のインストール引数

次の表は、すべての展開に共通のコマンドライン引数について説明します。

引数	値	説明
LANGUAGE	10 進数の LCID	Cisco Jabber for Windows で使用される言語のロケール ID（LCID）を 10 進数で定義します。値は、サポートされる言語に対応する、10 進数の LCID でなくてはなりません。 たとえば、次のいずれかを指定できます。 • 1033 は英語です。 • 1036 はフランス語です。 指定可能な言語の完全なリストについては、「言語の *LCID*」トピックを参照してください。 この引数は省略可能です。 値を指定しない場合、Cisco Jabber for Windows では現在のユーザの地域言語を使用します。 リリース 11.1(1) 以降では、値を指定しないと、Cisco Jabber for Windows が UseSystemLanguage パラメータの値をチェックします。UseSystemLanguage パラメータが true に設定されている場合は、オペレーティング システムと同じ言語が使用されます。UseSystemLanguage パラメータが false または not defined に設定されている場合、クライアントは現在のユーザの地域言語をデフォルトとして使用します。 地域言語は、[コントロール パネル（Control Panel）] > [地域および言語（Region and Language）] > [日付、時刻、または数字形式の変更（Change the date, time, or number format）] > [形式（Formats）] タブ > [形式（Format）] ドロップダウンで設定します。

引数	値	説明
FORGOT_PASSWORD_URL	URL	ユーザが失ったパスワードまたは忘れたパスワードをリセットできる URL を指定します。 この引数は任意ですが推奨されています。 （注） クラウドベース展開では、Cisco WebEx 管理ツールを使用して、忘れたパスワードの URL を指定できます。ただし、ユーザがサインインするまで、クライアントはパスワード忘れの URL を取得できません。
AUTOMATIC_SIGN_IN	true false	リリース 11.1(1) 以降に適用されます。 ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン（Sign me in when Cisco Jabber starts）] チェックボックスがオンになるかどうかを指定します。 • true：ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン（Sign me in when Cisco Jabber starts）] チェックボックスがオンになります。 • false（デフォルト）：ユーザがクライアントをインストールしたときに [Cisco Jabber の起動時にサインイン（Sign me in when Cisco Jabber starts）] チェックボックスがオフになります。

引数	値	説明
TFTP_FILE_NAME	ファイル名	グループ設定ファイルの一意の名前を指定します。 値として、未修飾か完全修飾のファイル名を指定できます。この引数の値として指定するファイル名は、TFTP サーバのその他の設定ファイルよりも優先されます。 この引数は省略可能です。 メモ　Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス設定の [シスコサポートフィールド（Cisco Support Field）] で、グループ コンフィギュレーションファイルを指定できます。
LOGIN_RESOURCE	WBX MUT	複数のクライアントインスタンスへのユーザ サインインを制御します。 デフォルトで、ユーザは同時に Cisco Jabber の複数インスタンスにサインインできます。デフォルトの動作を変更するには、次のいずれかの値を設定します。 • WBX：ユーザは、一度に Cisco Jabber for Windows の 1 つのインスタンスにしかサインインできません。 Cisco Jabber for Windows は、ユーザの JID に `wbxconnect` サフィックスを付加します。ユーザは、`wbxconnect` サフィックスを使用する他の Cisco Jabber クライアントにサインインできません。 • MUT：ユーザは、一度に Cisco Jabber for Windows の 1 つのインスタンスにしかサインインできませんが、同時に他の Cisco Jabber クライアントにサインインできます。 Cisco Jabber for Windows の各インスタンスがユーザの JID に一意のサフィックスを付加します。

引数	値	説明
LOG_DIRECTORY	ローカルファイルシステムの絶対パス	クライアントがログ ファイルを書き込むディレクトリを定義します。 次の例のように、パス内のスペース文字をエスケープするために引用符を使用します。 `"C:\my_directory\Log Directory"` 指定するパスに、Windows で無効な文字を含めることはできません。 デフォルト値：`%USER_PROFILE%\AppData\Local\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\Logs`
CLICK2X	DISABLE	Cisco Jabber で click-to-x 機能を無効にします。 この引数をインストール中に指定すると、クライアントは click-to-x 機能のハンドラとして、オペレーティング システムで登録しません。この引数により、クライアントはインストール中の Microsoft Windows レジストリへの書き込みができなくなります。 クライアントを再インストールし、インストール後にクライアントで click-to-x 機能を有効にするには、この引数を省略します。

引数	値	説明
ENABLE_PRT	true false	• true（デフォルト）：クライアントの [ヘルプ（Help）] メニューで [問題の報告（Report a problem）] メニュー項目が有効になります。 • false：クライアントの [ヘルプ（Help）] メニューから、Jabber メニュー項目の [問題の報告（Report a problem）] オプションが削除されます。 このパラメータを false に設定しても、ユーザは [スタート メニュー（Start Menu] > [Cisco Jabber] ディレクトリ、または Program Files ディレクトリを使用して、問題レポートツールを手動で起動できます。ユーザが手動で PRT を作成し、このパラメータ値が false に設定されている場合、PRT から作成された zip ファイルにはコンテンツがありません。
ENABLE_PRT_ENCRYPTION	true false	問題レポートの暗号化を有効にします。この引数は PRT_CERTIFICATE_NAME 引数と共に設定する必要があります。 • true：Jabber クライアントから送信された PRT ファイルが暗号化されます。 • false（デフォルト）：Jabber クライアントから送信された PRT ファイルは暗号化されません。 PRT の暗号化には、Cisco Jabber 問題レポートの暗号化と復号化のための公開/秘密キー ペアが必要です。

引数	値	説明
PRT_CERTIFICATE_NAME	証明書の名前	[エンタープライズ信頼または信頼できるルート認証局の証明書ストア（Enterprise Trust or Trusted Root Certificate Authorities certificate store）] に公開キーと共に証明書の名前を指定します。証明書の公開キーは、Jabber 問題レポートの暗号化に使用されます。この引数は ENABLE_PRT_ENCRYPTION 引数と共に設定する必要があります。
INVALID_CERTIFICATE_BEHAVIOR	RejectAndNotify PromptPerSession	無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。 • RejectAndNotify：警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。 • PromptPerSession：警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。 FIPS モードの無効な証明書の場合、この引数は無視され、クライアントは警告メッセージを表示し、ロードされません。
Telemetry_Enabled	true false	分析データを収集するかどうかを指定します。デフォルト値は true です。 ユーザ エクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber は、個人識別が不可能な利用状況とパフォーマンスに関するデータを収集してシスコに送信する場合があります。収集されたデータは、シスコによって、Jabber クライアントがどのように使用され、どのように役立っているかに関する傾向を把握するために使用されます。 Cisco Jabber が収集する分析データと、収集しない分析データの詳細については、https://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy_02Jun10.html の「Cisco Jabber Supplement to Cisco's On-Line Privacy Policy」で確認できます。

引数	値	説明
LOCATION_MODE	ENABLED DISABLED ENABLEDNOPROMPT	ロケーション機能を有効にするかどうか、および新しいロケーションの検出時にユーザに通知するかどうかを指定します。 • ENABLED（デフォルト）：ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されます。 • DISABLED：ロケーション機能がオフになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。 • ENABLEDNOPROMPT：ロケーション機能がオンになります。新しいロケーションの検出時にユーザに通知されません。
FIPS_MODE	true false	Cisco Jabber が FIPS モードであるかどうかを指定します。 Cisco Jabber は、FIPS 対応ではないオペレーティング システムでも FIPS モードにすることができます。Windows API 以外による接続のみ FIPS モードになります。 この設定を含めない場合、Cisco Jabber ではオペレーティング システムから FIPS モードが判定されます。

引数	値	説明
SSO_EMAIL_PROMPT	ON OFF	ユーザのホーム クラスタを決定するために、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。 電子メール プロンプトが ServicesDomainSsoEmailPrompt によって定義されている動作をするためのインストーラ要件は、次のとおりです。 • SSO_EMAIL_PROMPT=ON • UPN_DISCOVERY_ENABLED=False • VOICE_SERVICES_DOMAIN=<domain_name> • SERVICES_DOMAIN=<domain_name> 例：msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi SSO_EMAIL_PROMPT=ON UPN_DISCOVERY_ENABLED=False VOICE_SERVICES_DOMAIN=example.cisco.com SERVICES_DOMAIN=example.cisco.com CLEAR=1

引数	値	説明

ENABLE_DPI_AWARE	true
	false
		DPI 対応を有効にします。DPI 対応により、さまざまな画面サイズに合わせて Cisco Jabber がテキストとイメージの表示を自動的に調整することができます。
		• true（デフォルト）：
		  • Windows 8.1 および Windows 10 では、Cisco Jabber は各モニタのさまざまな DPI 設定に合わせて調整します。
		  • Windows 7 および Windows 8 では、Cisco Jabber はシステムの DPI 設定に応じて表示します。
		• false：DPI 対応は有効になりません。
		DPI 対応はデフォルトで有効になっています。DPI 対応を無効にするには、`msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi CLEAR=1 ENABLE_DPI_AWARE=false` コマンドを使用します。
		（注） コマンド ラインで Cisco Jabber をインストールする場合は、必ず CLEAR=1 の引数を記述します。コマンド ラインから Cisco Jabber をインストールしない場合は、jabber-bootstrap.properties ファイルを手動で削除する必要があります。

引数	値	説明
IP_Mode	IPv4 のみ IPv6 のみ 2 つのスタック	Jabber クライアントのネットワーク IP プロトコルを指定します。 • IPV4 のみ：Jabber は IPv4 接続のみ試行します。 • IPV6 のみ：Jabber は IPv6 接続のみ試行します。 • 2 つのスタック（デフォルト）：Jabber は IPv4 または IPv6 のいずれかと接続できます。 （注） IPv6 のみのサポートは、デスクトップ デバイスのオンプレミス展開でのみ使用できます。Jabber モバイル デバイスは、すべて 2 つのスタックとして構成しなければなりません。 IPv6 の展開の詳細については、シスコ コラボレーション システム リリース 12.0 の IPv6 展開ガイドを参照してください。 Jabber で使用するネットワーク IP プロトコルの決定には、いくつかの要因があります。詳細については、『*Planning Guide*』の「IPv6 Requirements」の項を参照してください。
DIAGNOSTICSTOOLENABLED	true false	Cisco Jabber for Windows ユーザに対して Cisco Jabber 診断ツールが利用可能かどうかを指定します。 • true（デフォルト）：ユーザは、Ctrl キーと Shift キーを押した状態で D キーを入力して、Cisco Jabber 診断ツールを表示できます。 • false：ユーザは Cisco Jabber 診断ツールを利用できません。

引数	値	説明
FORWARD_VOICEMAIL	true false	[ボイス メッセージ（Voice Messages）] タブでボイスメールの転送を有効にします。 • true（デフォルト）：ユーザはボイスメールを連絡先へ転送できます。 • false：ボイスメールの転送は有効になりません。

言語の LCID

次の表に、Cisco Jabber クライアントがサポートするロケール ID（LCID）または言語 ID（LangID）を示します。

サポートされる言語	Cisco Jabber for Windows	Cisco Jabber for Mac	Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for iPhone and iPad	LCID/LangID
アラビア語（サウジアラビア）	X		X	1025
ブルガリア語（ブルガリア）	X	X		1026
カタロニア語（スペイン）	X	X		1027
簡体字中国語（中国）	X	X	X	2052
繁体字中国語（台湾）	X	X	X	1028
クロアチア語（クロアチア）	X	X		1050
チェコ語（チェコ共和国）	X	X		1029
デンマーク語（デンマーク）	X	X	X	1030

サポートされる言語	Cisco Jabber for Windows	Cisco Jabber for Mac	Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for iPhone and iPad	LCID/LangID
オランダ語（オランダ）	X	X	X	1043
英語（米国）	X	X	X	1033
フィンランド語（フィンランド）	X	X		1035
フランス語（フランス）	X	X	X	1036
ドイツ語（ドイツ）	X	X	X	1031
ギリシャ語（ギリシャ）	X	X		1032
ヘブライ語（イスラエル）	X			1037
ハンガリー語（ハンガリー）	X	X		1038
イタリア語（イタリア）	X	X	X	1040
日本語（日本）	X	X	X	1041
韓国語（韓国）	X	X	X	1042
ノルウェー語（ノルウェー）	X	X		2068
ポーランド語（ポーランド）	X	X		1045
ポルトガル語（ブラジル）	X	X	X	1046
ポルトガル語（ポルトガル）	X	X		2070

サポートされる言語	Cisco Jabber for Windows	Cisco Jabber for Mac	Cisco Jabber for Android、Cisco Jabber for iPhone and iPad	LCID/LangID
ルーマニア語（ルーマニア）	X	X		1048
ロシア語（ロシア）	X	X	X	1049
セルビア語	X	X		1050
スロバキア語（スロバキア）	X	X		1051
スロベニア語（スロベニア）	X	X		1060
スペイン語（スペイン（インターナショナル ソート））	X	X	X	3082
スウェーデン語（スウェーデン）	X	X	X	5149
タイ語（タイ）	X	X		1054
Turkish	X	X		1055

MSI の手動による実行

インストール プログラムを手動で実行すれば、クライアントの単一のインスタンスをインストールして、[詳細設定（Advanced settings）] ウィンドウで接続設定を指定できます。

手順

ステップ 1 `CiscoJabberSetup.msi` を起動します。

インストール プログラムにより、インストール プロセスのウィンドウが開きます。

ステップ 2 手順に従ってインストール プロセスを完了します。

ステップ 3 Cisco Jabber for Windows を起動します。

ステップ 4 [手動設定およびログイン（Manual setup and sign in）] を選択します。
[詳細設定（Advanced settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 接続設定プロパティの値を指定します。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

カスタム インストーラの作成

カスタム インストーラを作成するデフォルトのインストール パッケージを変換できます。

（注） カスタム インストーラは Microsoft Orca を使用して作成します。Microsoft Orca は Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 の一部として入手できます。

Microsoft の Web サイトから、Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 をダウンロードしてインストールします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	デフォルト トランスフォーム ファイルの取得, （25 ページ）	Microsoft Orca でインストール パッケージを修正するためには、デフォルト トランスフォーム ファイルが必要です。
ステップ 2	カスタム トランスフォーム ファイルの作成, （26 ページ）	トランスフォームファイルは、インストーラに適用するインストールプロパティが含まれます。
ステップ 3	インストーラの変換, （27 ページ）	インストーラをカスタマイズするため、トランスフォーム ファイルを適用します。

デフォルト トランスフォーム ファイルの取得

Microsoft Orca でインストール パッケージを修正するためには、デフォルト トランスフォーム ファイルが必要です。

手順

ステップ 1 ソフトウェア ダウンロード ページから Cisco Jabber 管理パッケージをダウンロードします。

ステップ 2 Cisco Jabber 管理パッケージからファイル システムに `CiscoJabberProperties.msi` をコピーします。

次の作業

カスタム トランスフォーム ファイルの作成, （26 ページ）

カスタム トランスフォーム ファイルの作成

カスタムインストーラを作成するには、変換ファイルを使用します。トランスフォームファイルは、インストーラに適用するインストール プロパティが含まれます。

デフォルトトランスフォームファイルは、インストーラを変換するとプロパティの値を指定することができます。1 つのカスタムインストーラを作成する場合、デフォルト トランスフォーム ファイルを使用する必要があります。

任意でカスタム トランスフォーム ファイルを作成できます。カスタム トランスフォーム ファイルでプロパティの値を指定し、インストーラに適用します。

異なるプロパティの値を持つ複数のカスタムインストーラを必要とする場合、カスタムトランスフォーム ファイルを作成します。たとえば、デフォルト言語をフランス語に設定するトランスフォーム ファイルと、デフォルト言語をスペイン語に設定するもう 1 つのトランスフォーム ファイルを作成できます。インストールパッケージに各トランスフォームファイルを個別に適用できます。2 つのインストーラを作成したことで、各言語に 1 つのインストーラが作成されます。

はじめる前に

デフォルト トランスフォーム ファイルの取得, （25 ページ）

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 `CiscoJabberSetup.msi` を開いてから、`CiscoJabberProperties.msi` を適用します。

ステップ 3 該当するインストーラ プロパティに値を指定します。

ステップ 4 トランスフォーム ファイルを生成して保存します。

a) [トランスフォーム（Transform）] > [トランスフォームの生成（Generate Transform）] を選択します。

b) トランスフォーム ファイルを保存するファイル システムの場所を選択します。

c) トランスフォーム ファイルの名前を指定して [保存（Save）] を選択します。

作成したトランスフォーム ファイルは、*file_name*.mst として保存されます。このトランスフォーム ファイルを適用して、CiscoJabberSetup.msi のプロパティを変更できます。

次の作業

インストーラの変換, （27 ページ）

インストーラの変換

インストーラをカスタマイズするため、トランスフォーム ファイルを適用します。

（注） トランスフォーム ファイルを適用すると、CiscoJabberSetup.msi のデジタル署名が変更されます。CiscoJabberSetup.msi を修正したり、名前を変更しようとすると、署名が完全に削除されます。

はじめる前に

カスタム トランスフォーム ファイルの作成, （26 ページ）

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 Microsoft Orca で CiscoJabberSetup.msi を開きます。

a) [ファイル（File）] > [開く（Open）] を選択します。
b) ファイル システム上の CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
c) CiscoJabberSetup.msi を選択してから、[開く（Open）] を選択します。

Microsoft Orca でインストール パッケージが開きます。インストーラのテーブルのリストが [テーブル（Tables）] ペインに表示されます。

ステップ 3 1033（英語）以外のすべての言語コードを削除します。

制約事項 カスタム インストーラから 1033（英語）以外のすべての言語コード削除する必要があります。

Microsoft Orcaでは、デフォルト（1033）以外のいずれの言語ファイルもカスタム インストーラで保持されません。カスタムインストーラからすべての言語コードを削除しない場合、言語が英語以外のオペレーティング システムでインストーラを実行できません。

a) [表示（View）] > [要約情報（Summary Information）] を選択します。
[要約情報の編集（Edit Summary Information）] ウィンドウが表示されます。
b) [言語（Language）] フィールドを見つけます。
c) 1033 以外のすべての言語コードを削除します。
d) [OK] を選択します。

英語がカスタム インストーラの言語として設定されます。

ステップ 4 トランスフォーム ファイルを適用します。

a) [トランスフォーム（Transform）] > [トランスフォームの適用（Apply Transform）] を選択します。
b) ファイル システムのトランスフォーム ファイルの場所を参照します。
c) トランスフォーム ファイルを選択し、[開く（Open）] を選択します。

ステップ 5 [テーブル（Tables）] ペインのテーブルのリストから [プロパティ（Property）] を選択します。
`CiscoJabberSetup.msi` のプロパティのリストがアプリケーション ウィンドウの右パネルに表示されます。

ステップ 6 必要とするプロパティの値を指定します。

ヒント 値は大文字と小文字を区別します。このマニュアルの値と一致する値であることを確認します。

ヒント CLEAR の値を 1 に設定し、以前のインストールからの既存のブートストラップ ファイルを上書きします。既存のブートストラップ ファイルを上書きしない場合、カスタム インストーラで設定する値は有効ではありません。

ステップ 7 必要のないプロパティを削除します。
設定されていないプロパティを削除するのは重要です。削除しないと、設定されたプロパティが有効になりません。必要ない各プロパティを 1 つずつ削除します。

a) 削除するプロパティを右クリックします。
b) [行を削除（Drop Row）] を選択します。
c) Microsoft Orca から続行を要求されたら、[OK] を選択します。

ステップ 8 カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。

a) [ツール（Tools）] > [オプション（Options）] を選択します。
b) [データベース（Database）] タブを選択します。
c) [[名前を付けて保存（Save As）] の選択時に埋め込みストリームをコピーする（Copy embedded streams during 'Save As'）] を選択します。
d) [適用（Apply）] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 9 カスタム インストーラを保存します。

a) [ファイル（File）] > [名前を付けて変換を保存（Save Transformed As）] を選択します。
b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。
c) インストーラの名前を指定してから、[保存（Save）] を選択します。

インストーラのプロパティ

以下は、カスタム インストーラで変更できるプロパティです。

- CLEAR

- PRODUCT_MODE
- AUTHENTICATOR
- CUP_ADDRESS
- TFTP
- [CTI]
- CCMCIP
- LANGUAGE
- TFTP_FILE_NAME
- FORGOT_PASSWORD_URL
- SSO_ORG_DOMAIN
- LOGIN_RESOURCE
- LOG_DIRECTORY
- CLICK2X
- SERVICES_DOMAIN

これらのプロパティは、インストールの引数に対応し、同じ値が設定されています。

グループ ポリシーを使用した導入

Microsoft Windows Server の Microsoft グループ ポリシー管理コンソール（GPMC）を使用して、グループ ポリシーと一緒に Cisco Jabber for Windows をインストールします。

（注） グループ ポリシーと一緒に Cisco Jabber for Windows をインストールするには、Cisco Jabber for Window を展開するすべてのコンピュータまたはユーザが同じドメイン内に存在する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	言語コードの設定, （30 ページ）	MSI が何らかの形で Orca により変更されている場合のみ、この手順を使用して [言語（Language）] フィールドを 1033 に設定します。
ステップ 2	グループ ポリシーでのクライアントの展開, （30 ページ）	Cisco Jabber for Windows with Group Policy を導入します。

言語コードの設定

インストール言語の変更は、シスコが提供する MSI ファイルを使用するグループ ポリシーの配置シナリオでは必要ではありません。このような状況において、インストール言語は Windows ユーザ ロケール（形式）から決定されます。MSI が何らかの形で Orca により変更されている場合のみ、この手順を使用して [言語（Language）] フィールドを 1033 に設定します。

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。
Microsoft Orca は、Microsoft の Web サイトからダウンロード可能な Microsoft Windows SDK for Windows 7 と .NET Framework 4 の一部として入手できます。

ステップ 2 `CiscoJabberSetup.msi` を開きます。
a) [ファイル（File）] > [開く（Open）] を選択します。
b) ファイル システム上の `CiscoJabberSetup.msi` の場所を参照します。
c) `CiscoJabberSetup.msi` を選択してから、[開く（Open）] を選択します。

ステップ 3 [表示（View）] > [要約情報（Summary Information）] を選択します。

ステップ 4 [言語（Language）] フィールドを見つけます。

ステップ 5 [言語（Languages）] フィールドを 1033 に設定します。

ステップ 6 [OK] を選択します。

ステップ 7 カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。
a) [ツール（Tools）] > [オプション（Options）] を選択します。
b) [データベース（Database）] タブを選択します。
c) [[名前を付けて保存（Save As）] の選択時に埋め込みストリームをコピーする（Copy embedded streams during 'Save As'）] を選択します。
d) [適用（Apply）] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 8 カスタム インストーラを保存します。
a) [ファイル（File）] > [名前を付けて変換を保存（Save Transformed As）] を選択します。
b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。
c) インストーラの名前を指定してから、[保存（Save）] を選択します。

次の作業

グループ ポリシーでのクライアントの展開, （30 ページ）

グループ ポリシーでのクライアントの展開

グループ ポリシーと Cisco Jabber for Windows を展開するには、このタスクの手順を実行します。

はじめる前に

言語コードの設定, （30 ページ）

手順

ステップ 1 導入のためのソフトウェア配布ポイントにインストール パッケージをコピーします。
Cisco Jabber for Windows を展開する予定のすべてのコンピュータまたはユーザは、配布ポイント上のインストール パッケージにアクセスできる必要があります。

ステップ 2 [スタート（Start）]>[ファイル名を指定して実行（Run）] を選択し、次のコマンドを入力します。
`GPMC.msc`

[グループ ポリシー管理（Group Policy Management）] コンソールが開きます。

ステップ 3 新しいグループ ポリシー オブジェクトを作成します。

a) 左側のペインの適切なドメインを右クリックします。
b) [このドメインに GPO を作成してここにリンクする（Create a GPO in this Domain, and Link it here）] を選択します。
[新しい GPO（New GPO）] ウィンドウが開きます。
c) [名前（Name）] フィールドにグループ ポリシー オブジェクトの名前を入力します。
d) デフォルト値をそのままにするか、[発信元の開始 GPO（Source Starter GPO）] ドロップダウンリストから適切なオプションを選択し、次に [OK] を選択します。
新しいグループ ポリシーが、ドメインのグループ ポリシーのリストに表示されます。

ステップ 4 導入の範囲を設定します。

a) 左側のペインのドメインの下からグループ ポリシー オブジェクトを選択します。
グループ ポリシー オブジェクトが右側のペインに表示されます。
b) [スコープ（Scope）] タブの [セキュリティ フィルタリング（Security Filtering）] セクションで、[追加（Add）] を選択します。
[ユーザ、コンピュータ、またはグループの選択（Select User, Computer, or Group）] ウィンドウが開きます。
c) Cisco Jabber for Windows を導入するコンピュータとユーザを指定します。

ステップ 5 インストール パッケージを指定します。

a) 左側のペインのグループ ポリシー オブジェクトを右クリックして、[編集（Edit）] を選択します。
[グループ ポリシー管理エディタ（Group Policy Management Editor）] が開きます。
b) [コンピュータの設定（Computer Configuration）] を選択して、[ポリシー（Policies）]>[ソフトウェアの設定（Software Settings）] を選択します。
c) [ソフトウェアのインストール（Software Installation）] を右クリックして、[新規（New）]>[パッケージ（Package）] を選択します。
d) [ファイル名（File Name）] の横にインストール パッケージの場所を入力します（例：`\\server\software_distribution`）。

重要　インストール パッケージの場所として Uniform Naming Convention（UNC）パスを入力する必要があります。UNC パスを入力しなかった場合は、グループ ポリシーで Cisco Jabber for Windows を展開できません。

e) インストール パッケージを選択して、[開く（Open）] を選択します。

f) [ソフトウェアの導入（Deploy Software）] ダイアログボックスで、[割り当て済み（Assigned）] を選択し、[OK] を選択します。

グループ ポリシーによって、次回のコンピュータの起動時にコンピュータごとに Cisco Jabber for Windows がインストールされます。

Windows の自動更新の設定

自動更新を有効にするには、HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL などの最新バージョンに関する情報を含む XML ファイルを作成します。ユーザがサインインしたとき、コンピュータをスリープ モードから再開したとき、または [ヘルプ（Help）] メニューから手動更新要求を実行したとき、クライアントは XML ファイルを取得します。

（注）　インスタント メッセージおよびプレゼンス機能に Cisco WebEx Messenger Service を使用する場合は、Cisco WebEx 管理ツールを使用して自動更新を設定する必要があります。

XML ファイルの構造

自動更新用の XML ファイルは次のような構造となっています。

```
<JabberUpdate>
          <App name="JabberWin">
               <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
               <LatestVersion>11.8.x</LatestVersion>
               <Mandatory>true</Mandatory>
               <Message>
                  <b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
                  following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2</li></ul>For
                  more information click <a target="_blank"
                  href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.
               </Message>
              <DownloadURL>http://http_server_name/CiscoJabberSetup.msi</DownloadURL>

          </App>
        </JabberUpdate>
```

はじめる前に

- XML ファイルとインストール パッケージをホストするために、HTTP サーバをインストールして設定します。
- ワークステーションにソフトウェア アップデートをインストールできる権限がユーザにあることを確認します。

ユーザがワークステーションに対する管理権限を持っていない場合は、Microsoft Windows が更新インストールを停止します。インストールを完了するには、管理者権限でログインする必要があります。

手順

ステップ 1 ご使用の HTTP サーバで更新インストール プログラムをホストします。

ステップ 2 任意のテキスト エディタを使用して更新の XML ファイルを作成します。

ステップ 3 XML で次のように値を指定します。

- `name`：`App` 要素の `name` 属性の値として次の ID を指定します。
  - JabberWin：更新は Cisco Jabber for Windows に適用されます。
- `LatestBuildNum`：更新のビルド番号。
- `LatestVersion`：更新のバージョン番号。
- `Mandatory`：（Windows クライアントのみ）True または False。 画面の指示に従って、ユーザがクライアント バージョンをアップグレードする必要があるかどうかを決定します。
- `Message`：次の形式の HTML。

  ```
  <![CDATA[your_html]]>
  ```

- `DownloadURL`：HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL。
- `AllowUpdatesViaExpressway` — Windows クライアントのみ）。False（デフォルト）または True。 Expressway for Mobile and Remote Access 上で社内ネットワークに接続しているとき、Jabber が自動更新を行うか指定します。

  更新 XML ファイルがパブリック Web サーバにホストされている場合、このパラメータを false に設定します。そうしないと、Jabber には、更新ファイルが内部サーバにホストされており、Expressway for Mobile and Remote Access を介してアクセスする必要があると通知されます。

ステップ 4 更新 XML ファイルを保存して閉じます。

ステップ 5 HTTP サーバ上で更新 XML ファイルをホストします。

ステップ 6 設定ファイルの UpdateUrl パラメータの値として更新 XML ファイルの URL を指定します。

Cisco Jabber for Windows のアンインストール

コマンド ラインまたは Microsoft Windows のコントロール パネルを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールできます。このマニュアルでは、コマンド ラインを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールする方法について説明します。

インストーラの使用

ファイル システムでインストーラが利用可能な場合は、それを使用して Cisco Jabber for Windows を削除します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /x path_to_CiscoJabberSetup.msi
```

次の例を参考にしてください。

```
msiexec.exe /x C:\Windows\Installer\CiscoJabberSetup.msi /quiet
```

ここで、`/quiet` により、サイレント アンインストールが指定されます。

このコマンドは、コンピュータから Cisco Jabber for Windows を削除します。

製品コードの使用

ファイル システムでインストーラが利用できない場合は、製品コードを使用して Cisco Jabber for Windows を削除します。

手順

ステップ 1 製品コードを検索します。

a) Microsoft Windows レジストリ エディタを開きます。
b) レジストリ キー HKEY_CLASSES_ROOT\Installer\Products を見つけます。
c) [編集（Edit）] > [検索（Find）] を選択します。
d) [検索（Find）] ウィンドウの [検索（Find what）] テキスト ボックスに Cisco Jabber と入力し、[次を検索（Find Next）] を選択します。
e) ProductIcon キーの値を検索します。
製品コードは、ProductIcon キーの値（たとえば、`C:\Windows\Installer\{product_code}\ARPPRODUCTICON.exe`）です。

（注） 製品コードは Cisco Jabber for Windows のバージョンごとに異なります。

ステップ 2 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 3 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /x product_code
```

次の例を参考にしてください。

```
msiexec.exe /x 45992224-D2DE-49BB-B085-6524845321C7 /quiet
```

ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。

このコマンドは、コンピュータから Cisco Jabber for Windows を削除します。

Cisco Jabber for Mac のインストール

Cisco Jabber for Mac のインストーラ

クライアントのインストール

クライアントをインストールするには、次のいずれかの方法を使用します。

- ユーザが手動でアプリケーションをインストールできるよう、インストーラを提供します。クライアントはApplicationsフォルダにインストールされます。クライアントの以前のバージョンを削除する必要があります。
- ユーザに自動アップデートを設定すると、インストーラは告知なしにアプリケーションを更新します。

  自動更新では、クライアントはいつも Applications フォルダに追加されます。

  - クライアントが別のフォルダにある場合、または Applications フォルダのサブフォルダにある場合は、Applications フォルダにクライアントを実行するためのリンクが作成されます。
  - ユーザが以前クライアントの名前を変更している場合は、インストーラはそれに一致するよう新しいクライアントの名前を変更します。

他の OS X インストーラのインストールと同様に、ユーザはシステムのクレデンシャルを入力するよう求められます。

告知なしのインストール：クライアントを告知なしにインストールするには、端末ツールで次の Mac OS X コマンドを使用します。

```
sudo installer -pkg /path_to/Install_Cisco-Jabber-Mac.pkg -target /
```

インストーラ コマンドの詳細は、Mac のインストーラのマニュアル ページを参照してください。

アクセサリ マネージャ

アクセサリ マネージャは、アクセサリ デバイス ベンダーにユニファイドコミュニケーション制御 API を提供するコンポーネントです。サードパーティ製デバイスは、この API を使い、デバイスで消音、通話の応答、通話の終了などのタスクを実行できます。サードパーティ ベンダーはアプリケーションによってロードされるプラグインを作成します。スピーカー、マイクに対応した標準ヘッドセットを接続できます。特定のデバイスのみがコール制御のアクセサリ マネージャと対話します。詳細はデバイス ベンダーにお問い合わせください。デスクトップの電話機はサポートされません。

クライアント インストーラにはベンダーが提供するサードパーティのプラグインが含まれます。これらは `/Library/Cisco/Jabber/Accessories/` フォルダにインストールされます。

サポートされるサードパーティ ベンダーは、以下のとおりです。

- Logitech
- Sennheiser
- Jabra
- Plantronics

アクセサリ マネージャの機能はデフォルトで有効になっており、EnableAccessoriesManager パラメータを使用して設定されます。BlockAccessoriesManager パラメータを使用して、サードパーティのベンダーが提供する特定のアクセサリ マネージャ プラグインを無効にできます。

設定（Configuration）

クライアントへサインインするための設定情報を入力します。次のいずれかを実行します。

- オプションのサーバの情報を含む設定用 URL をユーザに提供します。詳細は、『*Cisco Jabber for Mac の URL 設定*』セクションを参照してください。
- 手動で接続するため、サーバの情報をユーザに提供します。詳細は、『手動接続設定』セクションを参照してください。
- サービス ディスカバリ - 詳細は、『サービス ディスカバリ』セクションを参照してください。

インストーラの手動での実行

インストール プログラムを手動で実行すれば、クライアントの単一のインスタンスをインストールして、[設定（Preferences）] で接続設定を指定できます。

はじめる前に

クライアントの古いバージョンをすべて削除します。

手順

ステップ 1 `jabber-mac.pkg` を起動します。
インストーラにより、インストール プロセスのウィンドウが開きます。

ステップ 2 手順に従ってインストール プロセスを完了します。
インストーラはシステム クレデンシャルの入力を要求します。

ステップ 3 設定 URL を使い、またはクライアントを直接実行して、クライアントを起動します。
ユーザ クレデンシャルを入力します。

Cisco Jabber for Mac の URL 設定

ユーザが手動でサービス ディスカバリ情報を入力しなくても Cisco Jabber を起動できるようにするには、構成 URL を作成してユーザに配布します。

電子メールで直接、ユーザにリンクを送信するか、Web サイトにリンクを掲載することで、ユーザに構成 URL リンクを提供できます。

URL には次のパラメータを含めて指定できます。

- ServicesDomain：必須。すべての構成 URL に Cisco Jabber でのサービス ディスカバリに必要な IM and Presence サーバのドメインを含める必要があります。
- VoiceServiceDomain：IM and Presence サーバのドメインが音声サーバのドメインと異なるハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャを展開する場合にのみ必要です。Cisco Jabber が音声サービスを検出できるようにするために、このパラメータを設定します。
- ServiceDiscoveryExcludedServices：任意。サービス ディスカバリ プロセスから次のサービスを除外できます。
  - WEBEX：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - CAS 検索を実行しません。
    - 検索：
      - `_cisco-uds`
      - `_cuplogin`
      - `_collab-edge`
  - CUCM：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - `_cisco-uds` を検索しません。
    - 検索：
      - `_cuplogin`
      - `_collab-edge`
  - CUP：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - `_cuplogin` を検索しません。
    - 検索：
      - `_cisco-uds`
      - `_collab-edge`

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

3 つのサービスをすべて除外した場合、クライアントはサービス ディスカバリを実行せず、手動で接続設定を入力することをユーザに求めます。

- ServicesDomainSsoEmailPrompt：任意。ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。
  - ON
  - OFF
- EnablePRTEncryption：任意。PRT ファイルの暗号化を指定します。Cisco Jabber for Mac で使用します。
  - true
  - false
- PRTCertificateName：任意。証明書の名前を指定します。Cisco Jabber for Mac で使用します。
- InvalidCertificateBehavior：任意。無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。
  - RejectAndNotify：警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。
  - PromptPerSession：警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。
- Telephony_Enabled：ユーザに対して電話機能を有効にするかどうかを指定します。デフォルトは true です。
  - True
  - False
- DiagnosticsToolEnabled：クライアントで診断ツールを使用できるようにするかどうかを指定します。デフォルトは true です。
  - [はい（True）]
  - いいえ（False）

構成 URL は次の形式で作成します。

```
ciscojabber://provision?ServicesDomain=<domain_for_service_discover>
&VoiceServicesDomain=<domain_for_voice_services>
&ServiceDiscoveryExcludedServices=<services_to_exclude_from_service_discover>
&ServicesDomainSsoEmailPrompt=<ON/OFF>
```

（注） パラメータには大文字と小文字の区別があります。構成 URL を作成する際は、次の表記を使用する必要があります。

- `ServicesDomain`
- `VoiceServicesDomain`
- `ServiceDiscoveryExcludedServices`
- `ServicesDomainSsoEmailPrompt`
- `EnablePRTEncryption`
- `PRTCertificateName`
- `InvalidCertificateBehavior`
- `Telephony_Enabled`
- `IP_Mode`
- `DiagnosticsToolEnabled`

例

- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=service_domain&VoiceServicesDomain=voiceservice_domain&ServiceDiscoveryExcludedServices=WEBEX`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com&VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP&ServicesDomainSsoEmailPrompt=OFF`

Mac の自動更新の設定

自動更新を有効にするには、HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL などの最新バージョンに関する情報を含む XML ファイルを作成します。ユーザがサインインしたとき、コンピュータをスリープ モードから再開したとき、または [ヘルプ（Help）] メニューから手動更新要求を実行したとき、クライアントは XML ファイルを取得します。

（注） インスタント メッセージおよびプレゼンス機能に Cisco WebEx Messenger Service を使用する場合は、Cisco WebEx 管理ツールを使用して自動更新を設定する必要があります。

XML ファイルの構造

次に、自動更新の XML ファイルの例を示します。

```
<JabberUpdate>
<App name="JabberMac">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.6.1</LatestVersion>
  <Message><b>This new version of Cisco Jabber lets you do the following:</b><ul><li>Feature
1</li><li>Feature 2</li>
  </ul>For more information click <a target="_blank" href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.

  </Message>

<DownloadURL>http://http_server_name/Install_Cisco-Jabber-Mac-1.1.1-12345-MrbCdd.zip</DownloadURL>
</App>
</JabberUpdate>
```

XML ファイルの例 2

以下は自動更新の XML ファイルの例です。これは、Cisco Jabber for Windows と Cisco Jabber for Mac の両方に該当します。

```
<JabberUpdate>
 <App name="JabberMac">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.6.1</LatestVersion>
  <Message><b>This new version of Cisco Jabber lets you do the following:</b><ul><li>Feature
1</li><li>Feature 2</li>
  </ul>For more information click <a target="_blank" href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.

  </Message>

<DownloadURL>http://http_server_name/Install_Cisco-Jabber-Mac-1.1.1-12345-MrbCdd.zip</DownloadURL>

 </App>
 <App name="JabberWin">
  <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
  <LatestVersion>9.0</LatestVersion>
  <Message><b>This new version of Cisco Jabber lets you do the following:</b><ul><li>Feature
1</li><li>Feature 2
  </li></ul>For more information click <a target="_blank"
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.
  </Message>
  <DownloadURL>http://http_server_name/CiscoJabberSetup.msi
  </DownloadURL>
</App>
</JabberUpdate>
```

はじめる前に

XML ファイルとインストール パッケージをホストするために、HTTP サーバをインストールして設定します。

（注） DSA 署名が確実に成功するよう、Web サーバが特殊文字をエスケープする設定をしてください。たとえば、Microsoft IIS でのオプションは [2 重スペースを許可する（Allow double spacing）] です。

手順

ステップ 1 ご使用の HTTP サーバで更新インストール プログラムをホストします。

ステップ 2 任意のテキスト エディタを使用して更新の XML ファイルを作成します。

ステップ 3 XML で次のように値を指定します。

- `name`：`App` 要素の `name` 属性の値として次の ID を指定します。
  - JabberWin：更新は Cisco Jabber for Windows に適用されます。
  - JabberMac：更新は Cisco Jabber for Mac に適用されます。
- `LatestBuildNum`：更新のビルド番号。
- `LatestVersion`：更新のバージョン番号。
- `Mandatory`：True または False。画面の指示に従って、ユーザがクライアント バージョンをアップグレードする必要があるかどうかを決定します。
- `Message`：次の形式の HTML。

  `<![CDATA[your_html]]>`
- `DownloadURL`：HTTP サーバ上のインストール パッケージの URL。

  Cisco Jabber for Mac の場合、URL ファイルは次の形式にする必要があります。
  `Install_Cisco-Jabber-Mac-version-size-dsaSignature.zip`

ステップ 4 更新 XML ファイルを保存して閉じます。

ステップ 5 HTTP サーバ上で更新 XML ファイルをホストします。

ステップ 6 設定ファイルの UpdateUrl パラメータの値として更新 XML ファイルの URL を指定します。

Cisco Jabber モバイル クライアントのインストール

手順

ステップ 1 Cisco Jabber for Android をインストールするには、モバイル デバイスで Google Play からアプリケーションをダウンロードします。

ステップ 2 Cisco Jabber for iPhone and iPad をインストールするには、モバイル デバイスで App Store からアプリケーションをダウンロードします。

Cisco Jabber for Android、iPhone、および iPad の URL 設定

ユーザが手動でサービス ディスカバリ情報を入力しなくても Cisco Jabber を起動できるようにするには、構成 URL を作成してユーザに配布します。

電子メールで直接、ユーザにリンクを送信するか、Web サイトにリンクを掲載することで、ユーザに構成 URL リンクを提供できます。

URL には次のパラメータを含めて指定できます。

- ServicesDomain：必須。すべての構成 URL に Cisco Jabber でのサービス ディスカバリに必要な IM and Presence サーバのドメインを含める必要があります。
- VoiceServiceDomain：IM and Presence サーバのドメインが音声サーバのドメインと異なるハイブリッド クラウドベースのアーキテクチャを展開する場合にのみ必要です。Cisco Jabber が音声サービスを検出できるようにするために、このパラメータを設定します。
- ServiceDiscoveryExcludedServices：任意。サービス ディスカバリ プロセスから次のサービスを除外できます。
  - WEBEX：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - CAS 検索を実行しません。
    - 検索：
      - `_cisco-uds`
      - `_cuplogin`
      - `_collab-edge`
  - CUCM：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - `_cisco-uds` を検索しません。
    - 検索：
      - `_cuplogin`
      - `_collab-edge`
  - CUP：この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
    - `_cuplogin` を検索しません。
    - 検索：
      - `_cisco-uds`
      - `_collab-edge`

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

3 つのサービスをすべて除外した場合、クライアントはサービス ディスカバリを実行せず、手動で接続設定を入力することをユーザに求めます。

- ServicesDomainSsoEmailPrompt：任意。ユーザのホーム クラスタを決定する際に、ユーザに対して電子メール プロンプトを表示するかどうかを指定します。
  - ON
  - OFF
- InvalidCertificateBehavior：任意。無効な証明書に対するクライアントの動作を指定します。
  - RejectAndNotify：警告ダイアログが表示され、クライアントはロードされません。
  - PromptPerSession：警告ダイアログが表示され、ユーザは無効な証明書を受け入れるか、または拒否できます。
- PRTCertificateUrl：信頼できるルート認証局の証明書ストアにある公開キーを含む証明書の名前を指定します。モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。
- Telephony_Enabled：ユーザに対して電話機能を有効にするかどうかを指定します。デフォルトは true です。
  - True
  - False
- ForceLaunchBrowser：ユーザに外部ブラウザの使用を強制する場合に使用します。モバイル クライアント向け Cisco Jabber に適用されます。
  - True
  - False

（注） ForceLaunchBrowser は、クライアント証明書の展開および Android OS 5.0 よりも前のデバイスに使用されます。

構成 URL は次の形式で作成します。

```
ciscojabber://provision?ServicesDomain=<domain_for_service_discover>
&VoiceServicesDomain=<domain_for_voice_services>
&ServiceDiscoveryExcludedServices=<services_to_exclude_from_service_discover>
&ServicesDomainSsoEmailPrompt=<ON/OFF>
```

（注） パラメータには大文字と小文字の区別があります。構成 URL を作成する際は、次の表記を使用します。

- `ServicesDomain`
- `VoiceServicesDomain`
- `ServiceDiscoveryExcludedServices`
- `ServicesDomainSsoEmailPrompt`
- `PRTCertificateURL`
- `InvalidCertificateBehavior`
- `Telephony_Enabled`
- `ForceLaunchBrowser`

例

- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com &VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=service_domain &VoiceServicesDomain=voiceservice_domain&ServiceDiscoveryExcludedServices=WEBEX`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com &VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP`
- `ciscojabber://provision?ServicesDomain=cisco.com &VoiceServicesDomain=alphauk.cisco.com&ServiceDiscoveryExcludedServices=CUCM,CUP &ServicesDomainSsoEmailPrompt=OFF`

企業モビリティ管理によるモバイルの設定

企業モビリティ管理（EMM）を使用する前に、以下を確認してください。

- EMM ベンダーが Android for Work または Apple Managed App Configuration をサポートしている。
- Android デバイスの OS が 5.0 以降

ユーザが Cisco Jabber for Android または Cisco Jabber for iPhone and iPad を起動できるように、企業モビリティ管理（EMM）を使用して Cisco Jabber を設定できます。

EMM の設定の詳細については、EMM プロバイダーから提供される管理者用の説明書を参照してください。

Jabber をマネージド デバイスでのみ実行する場合、証明書ベースの認証を展開し、EMM を使用してクライアント証明書を登録できます。